

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト			担当部局庁	高等教育局	作成責任者				
事業開始年度	令和2年度	事業終了(予定)年度	令和6年度	担当課室	医学教育課	医学教育課長 伊藤 史恵				
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	経済財政運営と改革の基本方針2019(令和元年6月閣議決定) 統合イノベーション戦略2019(令和元年6月閣議決定) 厚生労働省「保健医療分野AI開発加速コンソーシアム 議論の整理と今後の方向性」(令和元年6月) 自由民主党 人工知能未来社会経済戦略本部「人工知能を駆使した未来社会に向けて」(令和元年5月) AI戦略2021(令和3年6月 統合イノベーション戦略推進会議決定)					
主要政策・施策				主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	将来にわたって国民に質の高い保健医療サービスを提供していくためには、人工知能(AI)を含めた科学技術を保健医療分野において開発・推進できる人材を養成することが必要不可欠であり、保健医療分野におけるAI研究開発を進めるべき「重点6領域」について人材養成に取組む大学を支援することにより、保健医療分野でのAI実装に向けた新たな教育拠点を構築する。									
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	医療系学部を有する大学を中心に、保健医療分野におけるAI研究開発(重点6領域)について、民間企業・団体等の協力を得て、医療現場のニーズ・知見を用いてAI技術開発を推進する医療人材を養成する。また、医療現場における医療データを活用した機械学習や企業等におけるAI技術の課題解決への応用を学ぶ等、保健医療分野でのAI実装に向けた新たな教育拠点を構築する。 【補助率:定額補助】									
実施方法	補助									
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求			
	予算 の 状 況	当初予算	-	202	201	201	134			
		補正予算	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	14	-				
		翌年度へ繰越し	-	▲ 14	-	-				
		予備費等	-	-	-	-				
	計		0	188	215	201	134			
	執行額		0	187	215					
	執行率(%)		-	99%	100%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		-	93%	107%					
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	研究拠点形成費等補助金		200	133	通減ルールに基づき事業終了前々年度の2/3に減額する。					
	研究拠点形成等謝金		0.4	0.4						
	研究拠点形成等委員等旅費		0.2	0.2						
	研究拠点形成等業務庁費		0.2	0.2						
計		201	134							
活動内容 (アクティビティ)	選定大学を対象に、民間企業・団体等の協力を得ながら、医療現場のニーズ・知見を用いて保健医療分野におけるAI研究開発を推進する医療人材を養成する拠点を形成する取組を支援する。									
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	保健医療分野におけるAI研究開発を推進する医療人材及び医療現場において、企業等の技術者と共同でAI技術を実装・推進する能力を持った人材を養成するための教育プログラム・コースの新設(発展的変更・拡充を含む)	保健医療分野におけるAI技術開発を推進する医療人材養成プログラム・コース実施数 ※事業初年度は次年度から教育プログラムコースを開設するための準備期間のため「0」となっている	活動実績	件	-	3	9			
		当初見込み	件	-	0	9	9	9		
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	執行額/採択件数 (事務費は除く)			単位当たり コスト	百万円	-	93	100	100	
				計算式	執行額/採 択件数	-	186百万円/2大学	200百万円/2大学	200百万円/2大学	

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
	4年度	6年度		4年度	6年度			
申請大学の計画に基づき、保健医療分野におけるAI技術開発を推進する人材を養成する ※事業初年度は次年度から教育プログラムコースを開設するための準備期間のため「0」となっている	成果実績	各大学が設定した保健医療分野におけるAI技術開発を推進する人材を養成する教育プログラムコースにおける養成人数	人	-	102	261	-	-
	目標値		人	-	0	59	123	251
	達成度		%	-	-	442	-	-

根拠として用いた統計・データ名 (出典)
 成果実績: 補助事業者からの取組状況報告
 目標値: 保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト申請書における受入目標人数

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
	4年度	6年度		4年度	6年度			
申請大学の計画に基づき、保健医療分野におけるAI技術開発を推進する人材の養成に関する取組や成果を波及させる ※前年度の事業実施状況を踏まえて次年度の目標を決めるため最終目標については未設定	成果実績	各大学が設定した保健医療分野におけるAI技術開発を推進する人材の養成に関するシンポジウムやセミナー等の参加大学数	件	-	39	123	-	-
	目標値		件	-	38	45	82	-
	達成度		%	-	103	273	-	-

根拠として用いた統計・データ名 (出典)
 成果実績: 補助事業者からの取組状況報告
 目標値: 保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト取組状況報告における達成目標

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	4 個性が輝く高等教育の振興						
	施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上		政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20210922-mxt_kanseisk02-000017742-4_1.pdf			
		該当箇所		3頁				
	取組事項	分野:	-					
新経済・財政再生計画改革工程表 2021	(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:							
	該当箇所							

事業所管部局による点検・改善

項目	評価	評価に関する説明
事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	健康長寿社会に向けた次世代の医療を実現するため、医療現場から大規模に収集される多様なデータの活用基盤を構築・運営する人材、医療データを利活用できる人材の育成が急務であり、本事業はこういった社会のニーズを反映しているものである。
地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、「健康・医療戦略」や「医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報に関する基本方針」、「未来投資戦略2018」等に盛り込まれた人材の育成を推進するものであり、我が国全体として必要とされる人材を計画的かつ確実に育成・確保する観点から、国が財政支援を行いながら強力で推進する必要がある。
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、「健康・医療戦略」や「医療分野の研究開発に資するための匿名加工医療情報に関する基本方針」、「未来投資戦略2018」等を踏まえ、次世代の医療に対応できる優れた人材の育成を推進するものであり、適切かつ優先度が高い事業である。

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性や競争性を確保している。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、 一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	交付決定・額の確定の際に、交付先から提出される申請書及び実績報告書等に基づいて精査をしているため、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	交付決定・額の確定の際に、交付先から提出される申請書及び実績報告書等に基づいて、支出先・用途を把握し妥当なコスト水準かを厳正に確認している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	交付決定・額の確定の際に、連携先や分担金等資金の流れを確認している。
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	交付決定・額の確定の際に、支出先・用途について厳正に確認することで、事業目的に即した真に必要なものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業の実施に当たっては、事業の中間評価の結果を各大学の経費配分に反映させるなど、効率化に努めている。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	定量的な成果目標に対して実績は確実に達成されており、着実な実施に努めている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	支出先の選定に当たっては、公募を行い、最も効果的・効率的に実施できる者を選定している。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	当該事業の活動実績については、医療現場から大規模に収集される多様なデータの活用基盤を構築・運営する人材、医療データを利活用できる人材の育成といった成果指標を達成すべく、設定した指標であり、毎年度当該目標値について検証作業を行うことで、着実な実施に努めている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	成果については各大学のホームページで公表されており、成果事例の活用促進を図っている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	本事業は、「経済財政運営と改革の基本方針2019」や「統合イノベーション戦略2019」、「AI戦略2021」等を踏まえ、人工知能(AI)を含めた科学技術を保健医療分野において推進・活用できる人材を養成するものであり、適切かつ優先度が高い事業である。支出先の選定に当たっては、公募を実施し、第三者委員会で選定することにより、その妥当性や競争性が確保されることになっている。	
	改善の方向性	本事業の実施に当たっては、毎年度の進捗状況・取組実績等を報告書により確認するとともに、中間評価及び事後評価を実施し、評価結果を踏まえた事業内容の改善・定着、成果の普及・発信を行うこととする。	
外部有識者の所見			
外部有識者による点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
一部の改善内容	この事業は、概ね計画通りに実施されていると考えられるが、本格的に修了生が輩出され始めることから、引き続き事業の成果のよりの確かな把握に努めるべきである。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
改年度を内検に	本事業においては、一定の成果指標において達成目標を定めており、外部有識者からなる事業委員会によるweb面談を含むヒアリング等を介し、上記指標の確認に加え、当初計画の達成状況及び事業の進捗状況や成果を把握するとともに、中間評価等を行っていく予定である。		
備考			
○保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1383121_00004.htm			

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度	-			
平成30年度				
令和元年度	文部科学省 - 新32 - 0014			
令和2年度	文部科学省 新02 0014			
令和3年度	2021 文科 20 0136			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

**文部科学省
(201百万円)**

謝金:0.4百万円
委員等旅費:0.2百万円
庁費:0.1百万円 を含む

対象大学から申請のあった事業内容を審査の上、支援対象とする取組を選定し、補助金を交付する。

【補助金等交付】

**A.大学(全2大学)
(200百万円)**

各大学が連携しキャリアパスの構築までを見据えた体系的な教育を実施するなど、教育を活性化することで、人工知能(AI)を含めた科学技術を保健医療分野において開発・推

【分担金】

**B.連携大学(全4大学)
(49百万円)**

申請担当大学と相互に連携・補完をして優れた医療人材を養成する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.国立大学法人東北大学			B.国立大学法人岡山大学		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
分担金	連携2大学への分担金	39	人件費・謝金	准教授・事務補佐員雇用経費	12
間接経費	光熱費等	23	その他	会議費・諸経費等	5
人件費・謝金	助教・事務補佐員雇用経費等	20	物品費	設備備品費・消耗品費	3
旅費・その他	出張費・諸経費等	15	旅費	出張費等	1
物品費	設備備品費・消耗品費	3			
計		100	計		21

